

(224) Cu-Cr-Al 系耐硫酸露食鋼について

神戸製鋼所 中央研究所 高村 昭・荒川 重
坪井孝悦

1. 緒言

重油専焼ボイラ、空気予熱器、煙道、集じん器およびその他の加熱装置などの低温部にあって問題となる硫酸露食に對してすぐれた耐食性を示す低合金を開發することを目的とし、このような使用条件に対応する新しい試験装置を考案して鋼の耐食性におよぶ化学成分の影響を検討した。その結果 Cu-Cr-Al 系鋼が最も耐食性がすぐれていることがわかったのでさらに実用面から機械的性質および溶接性に関する検討を行なった。

2. 試験方法

100 KVA 高周波炉を用いて溶製 (90kg インコット) した後 10 チャーチの試験材について下記に示す腐食試験によて成分決定のための予備試験を行なった。その後現場溶製材 (30ton 車炉) について従来鋼と比較試験を行なった。

1). 硫酸浸漬試験： 常温の 1% H₂SO₄ 中および硫酸と水の気液平衡図より求めた温度および濃度における浸漬試験。

2). 硫酸乾燥試験： H₂SO₄ (95%) に短時間浸漬し、その後熱風 (70~120°C) で乾燥する操作をくり返し行なう。

3). 硫酸露食腐食試験： H₂SO₄ 0.06 vol%, H₂O 9.0 vol%, SO₂ 0.15 vol%, CO₂ 11.5 vol%, O₂ 4.5 vol%, N₂ 9% の混合ガスを約 170°C に加熱し、ガス中の硫酸蒸気を試験片の表面 (38φ × 1mm, 表面積 8 cm²) に結露させたため試験片裏面を 130°C の油で冷却した。試験時間は 48hr および 120hr で、評価は重量減少によった。

さらに機械的性質および溶接性に関する引張強さ、最高カッサ、曲げ、Y型拘束割れ、十字すみ内割れ試験および溶接棒の試作より溶接部の耐食性を検討した。

3. 実験結果

成分決定のための予備試験における結果の一例を図 1 に示す。腐食量は Cr 量が高くなるほど減少し、さらに Al の相乗効果を認められた。予備試験結果に基づき決定した目標成分を有する 30ton 車炉溶製材 (C 0.08%, Si 0.32%, Mn 0.64%, P 0.020%, S 0.024%, Cu 0.22%, Cr 1.12%, Al 0.08%) にて特性試験を行なった結果の一例を図 2 および写真 1 に示す。試作材は従来の種々腐食環境で使用されてる溶接構造用 (SM 41C) および耐候性鋼 (Cu-P-Cr-Ni) を比べて約 2~3倍の耐食性を示し、さらに溶接性および機械的性質を満足する結果を得られたことを確認した。又本鋼を実装置に使用し、従来鋼と比較した場合あまり 2 倍の耐食性が得られることは認められなかった。

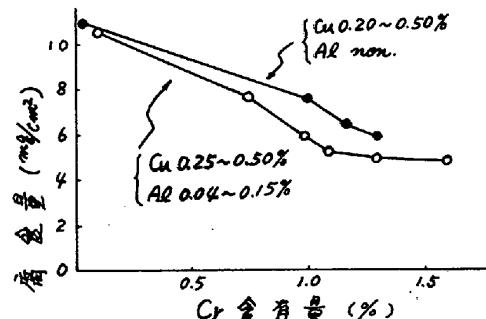


図 1. Cr 及び Cu-Al の効果 (硫酸露食腐食 48hr 試験)

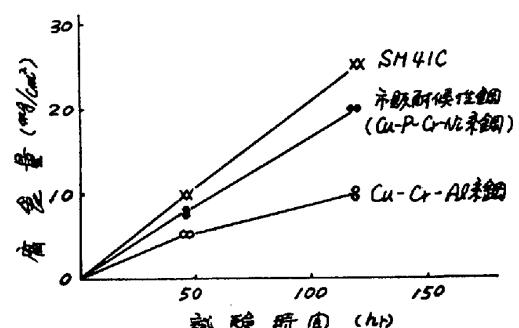


図 2. 硫酸露食腐食試験結果

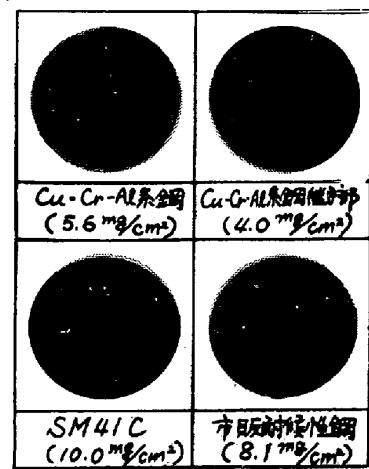


写真 1. 硫酸露食腐食試験 (48hr 試験) の試験片表面状態。